

■ 齋藤弥九郎(初代)
さいとうやくろう
古事記伝・・1798 =

神道無念流の剣客。千葉周作と類似の生涯。道場には高杉晋作・桂小五郎ら維新の主役が集まった。

越中国氷見郡仏生寺村の農家の長子に生れる。

07船狼藉・・1807 = 9歳：

高田屋拿捕・1812 = 14歳：_单身江戸に出て，旗本能勢氏の家僕となる。

・・・・・1815 = 17歳：_神田猿楽町の岡田十松吉利の"撃剣館"に入門，

伊能測量終・1816 = 18歳：_同門の江川太郎左衛門，藤田東湖らと親交を結び，心技ともに進歩著しく，

水野忠成老中1818 = 20歳：

・・・・・1820 = 22歳：_岡田十松の死去後，師範代となり道場経営にあたる。

異国船打払令1825 = 27歳：

・・・・・1826 = 28歳：*江川の援助で九段下俎板橋畔に神道無念流道場"練兵館"を開き独立した。

高島砲術・・1834 = 36歳：

滑稽+人情本 1835 = 37歳：_江川が伊豆韭山の代官職を継ぐと，乞われてその手代を務め，高島秋帆について西洋砲術を学ぶ。

大塩平八郎乱1837 = 39歳：

適塾オプン・ 1838 = 40歳：*道場が火災に遭ったため，九段坂上に移転。水戸藩主徳川斉昭に認められ，合力扶持を受けるなど，
_剣名とみに高まり，全国から英才が蟄集するようになる。

天保改革始・1841 = 43歳：秋帆の徳丸原演練にも参加，

順天堂始・・1843 = 45歳：

阿部正弘首座1845 = 47歳：

万次郎帰国・1852 = 54歳：

ペリー来航・1853 = 55歳：*翌年にかけ，江川を助けて品川御台場の築造に尽力。

_萩藩要請を受けて長男新太郎が藩士の剣術指導に当たったことから，高杉晋作，桂小五郎，品川弥二郎など人材が輩出，千葉周作の"玄武館"，桃井春蔵の"士学館"とともに，幕末江戸三大道場の一つとなった。

五ヶ国条約・1858 = 60歳：*新太郎に2代目弥九郎を襲名させ，代々木八幡に購入した土地を開拓して山荘を建て，隠居した。

桜田門外変・1860 = 62歳：

遣欧使節・・1861 = 63歳：

生麦事件・・1862 = 64歳：山荘に萩藩世子を迎えて，尊皇攘夷に向けて速やかに藩論を統一するよう進言。

明治維新・・1868 = 70歳：<戊辰戦争>では，山荘に止まって動かず，維新後は会計官権判事などを務めたが，

初の日刊新聞1870 = 72歳：

廃藩置県・・1871 = 73歳：_病を得て没した。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「江戸・東京を造った人々」，